

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
 A：十分達成できている
 B：おおむね達成できている
 C：やや不十分である
 D：不十分である

学校名	伊万里市立波多津小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>指標の設定に際し、具体的な行動や結果の数値目標を設定し、取り組んだ。全体的な評価結果として、全ての項目でA評価となり、一定の成果が上げられたと考える。</p> <p>いじめ問題への対応では、アンケート調査・指標の設定に際し、具体的な行動や結果の数値目標を設定し、取り組んだ。全体的な評価結果として、全ての項目でA評価となり、一定の成果が上げられたと考える。</p> <p>いじめ問題への対応では、アンケート調査や個人面談、教育相談週間、職員連絡会での情報共有などにより組織的に早期発見、早期対応に努めることができた。また、集会活動や「すてきカード」の取組、対話活動の充実などを通して、自己肯定感の向上や、友達の良さを認めようとする心を育てることができた。</p> <p>地域の「人・もの・こと」を生かした学習活動の充実を図った。地域団体やコミュニティセンターとの連携を積極的に進め、地域ならではの素材の発掘や人材の活用が活発にできた。また「はたらくプロジェクト」の実施により、児童は将来についての見通しや「働くこと」の意義に気付くとともに、地域の仕事の魅力を感じ取っていた。今後も継続的に取り組み、小学生の時期から進学や就職に対する選択肢を増やしていくことが重要である。</p> <p>望ましい生活習慣の形成において、学校と家庭、保護者が一体となった取組が重要であり、より強化するためにも育友会とも連携も継続して取組を進めていきたい。食や個人面談、教育相談週間、職員連絡会での情報共有などにより組織的に早期発見、早期対応に努めることができた。また、集会活動や「すてきカード」の取組、対話活動の充実などを通して、自己肯定感の向上や、友達の良さを認めようとする心を育てることができた。</p> <p>地域の「人・もの・こと」を生かした学習活動の充実を図った。地域団体やコミュニティセンターとの連携を積極的に進め、地域ならではの素材の発掘や人材の活用が活発にできた。また「はたらくプロジェクト」の実施により、児童は将来についての見通しや「働くこと」の意義に気付くとともに、地域の仕事の魅力を感じ取っていた。今後も継続的に取り組み、小学生の時期から進学や就職に対する選択肢を増やしていくことが重要である。</p> <p>望ましい生活習慣の形成において、学校と家庭、保護者が一体となった取組が重要であり、より強化するためにも育友会とも連携も継続して取組を進めていきたい。</p>

2 学校教育目標	は：励んで光る た：愉しんで光る つ：つながって光る
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>① 思考力、判断力、表現力の育成を目指した授業の創造を図る。</p> <p>② 自他の生命や人権を尊重する心、自尊感情・自己有用感の育成を図る。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○確かな学力(基礎・基本)の定着	○学校評価アンケートで「学校の勉強はよくわかる」と回答した児童90%以上 ○自分の考えが広がったり深まったりした児童80%以上 ○スタディー・ウィークの自己目標達成85%以上	・スキルタイムでは、プリントやAI型ドリル(eライブラリ)を活用し、基礎基本の定着を図る。 ・条件合った書(活動や、学習用語を使ってまとめた振り返り)を振り返りする活動に取り組む。 ・対話活動を通して、友達の考えを知り、自分の考えを深めたりする機会を設定する。 ・スタディー・ウィークの取組を通して、家庭学習の充実を図る。	●	●	●	●	●	●	研究主任 学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートによる友達に思いやりのある態度や言葉遣いで接することができる児童95%以上	・集会活動(平和集会、人権集会等)、人権週間の取組や、教材の活用等による道徳等の活動での授業実践を通して、自他ともに大切にしようとする心を育てる。 ・朝の時間のおはなしタイム(アドジャン)やグループエンカウンターを通して児童同士の信頼関係づくりを促す。	●	●	●	●	●	●	人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○保護者アンケートの「いじめに対する学校の取組」の評価を95%以上	・このアンケート等(1回/月)やQ-U(2回/年)を実施するとともに、個別の面談を定期的に行うことで、いじめ等の早期発見、早期対応に努める。 ・教育相談週間(2回/年)を実施することで、担任が児童一人ひとりと話をし、問題を解決する。 ・職員連絡会で気づいた子どもの報告をして、共通理解を図って対応する。	●	●	●	●	●	●	・教育相談担当 ・生活部主任
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○平日に毎日朝食を摂取る児童90%以上。 ○早寝早起きについて、自分(親子)で立てた早寝・早起きの目標を達成できた児童90%以上。	・生活習慣に関する呼びかけや取組を委員会活動で行い、児童自ら健康について考える機会を設ける。 ・給食試食会や栄養教諭との授業などを通して食の大切さについて情報を発信する。 ・教育委員会や保健士(1回/月程度)、健康教育の授業などを通して、保護者を巻き込んだ取組を行う。 ・早寝早起きについて、児童と保護者で自己目標を設定する機会を設け、定期的に振り返りを行う。	●	●	●	●	●	●	・食育推進担当 ・保健部主任
	○目標をもって体力づくりに取り組む教育活動。	○体を動かす遊びをしたり、一輪車の練習をしたりするなど、進んで運動ができる児童95%以上 ○スポーツチャレンジ3種目(ドッジボールラリー、8の字とび、みんなで輪くぐり)のうち、1種目以上に全学年参加する。	・児童自身でなかよしタイムで一輪車や体を動かす遊びを企画し、運動への意欲を高める。 ・一輪車カードや障害物など、活用し身体みや授業で楽しく活動ができるようにする。 ・健康委員会によるスポーツレクリエーションを全校で行い、運動の機会をつくる。(学期1回) ・県保健課実施のスポーツチャレンジを利用し、積極的に運動に関われるようにする。	●	●	●	●	●	●	・保健部主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・勤務時間の適正管理を行い、超過勤務時間が多い職員については、個別に指導や支援を行う。 ・定時退勤日の徹底、学校業務等の精選・効率化・時間短縮を進める。 ・ICTを効果的に活用し、業務の効率化を図りつつ、働きがいのある職場環境づくりに努める。	●	●	●	●	●	●	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員95%以上	・発達障害児の理解と具体的・実践的な支援について、講師を招聘しての夏季研修会を実施する。 ・支援を要する児童の共通理解を図る。 ・支援を要する児童への具体的な支援方法について職員全体で共有する。	●	●	●	●	●	●	特別支援コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域とともにある学校	○地域ならではの「人・もの・こと」を活用した教育活動の推進	○教科や領域と関連付け、各学年の実情にあわせた地域人材活用 ○地域のよさを知り、地域に誇りや愛着があると感じる児童95%以上 ○保護者や地域に対して、地域のことを話すことが多くなった児童80%以上	・地域ならではの「ひとものこと」を生かしながら、児童が主体的に地域と関わることができる学習課題の設定に取り組む。 ・コミュニティセンターや関係団体、学習内容に關する団体と連携し、「はたらくプロジェクト」等の活動を通して素材を生かした学習にスムーズに取り組むことのできる環境を整える。	●	●	●	●	●	●	教務主任 総合的な学習の時間主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>
----------------	----------------------------